



■平成28年3月3日～3月28日、3月定例会議が開催されました。

山本議員の一般質問を通じて、議会活動報告をいたします。  
なお、委員会などのトピックスは、ホームページの「山本せいご議会だより」でご覧になれます。

## 山本せいごの一般質問（3月定例会議）

### 28年度の施政方針の「まちづくり」について

平成28年度の施政方針で町長の所信が表明され、町政執行について方向付けがされた。  
精華町の地域づくりに関する事項について、具体的な内容を問う。

**質問1**：「地域コミュニティを土台にした地域福祉の発展」について、現存する自治会の単位と小学校単位の2つの地域コミュニティの役割りと分担をどう線引きし、取り組んでいくのか？

- 答弁：①自治会は、まちづくりの基礎単位として地域の防犯、防災、福祉など身近な取り組みをする。  
小学校区単位のコミュニティは、防災訓練、防犯パトロール、夏祭り、老人会活動など自治会を超えて広範囲に取り組みを進めていただいている。 など、線引き、役割分担されている。
- ②最終的に5つの小学校区単位にまとめたコミュニティは、自治会連合会の下部組織のブロックとしての活動を考えている。(将来的に自治会連合会ブロックは小学校区単位になる)

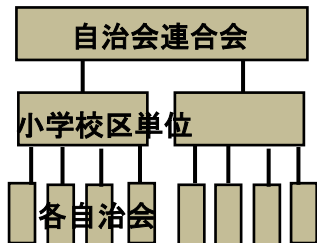
#### 再質問：

「地域コミュニティ」を運営していく中で、財政面を確立して予算を預け、地域の課題は地域に任せることが大事である。

また、町政協力員のあり方、財政面を含めて将来的にどう考えるか？

- 答弁①自治会連合会が自主的に動き始めるような段階になれば、自治会への助成なども小学校区単位のコミュニティになり、支援の見直しも必要になる。  
町政協力員の報酬も自治会への助成にシフトをしていく方向に考えている。
- ②自治会連合会が立ち上がってまだ数年、また小学校区単位のブロックづくりもこれから始まる段階、いろいろ踏まえながら練りあがっていくと考えている。

#### 地域コミュニティ



**質問2**：「高齢者が地域で活躍できる常設の場づくりと子供を守り育てる場づくりは根幹的施策」について、特に高齢者の場づくりの事業内容と進め方及び期待する効果の具体的内容を問う。

- 答弁：①ふれあいサロンは年々増加しているが、サロンの開催は平均月1回で常設までに至っていない。
- ②介護保険制度の改正により、住民主体の居場所づくりが、高齢者の健康づくり、介護予防、見守り体制の構築となるため、市町村ごとに取り組みが推進されている。
- ③町として、健康・介護予防サポーターの養成とともに、週1回程度開催の体操や体力測定を基本に住民主体の居場所づくりやモデル地区の立ち上げ支援をしていく。  
社協は、今年度より、居場所づくりとしてカフェ事業を支援している。
- ③来年度、シルバー人材センターのシルバーサロンを集会所の方で実験的に立ち上げ、ふれあいサロンを含めて、その回数を増やしていきたい。



- 小学校単位のコミュニティについては、自治会会員、役員に将来的なビジョンを見せながら、ステップを理解していただき、課題をクリアしながらより良いものを作り上げていただきたい。
- 高齢者の地域で活躍できる常設の場づくりには、町からのいろんな支援援助が必要になる。

# 議会だより (つづき 1)

**質問3:**「山手幹線の北進の早期開通に向け整備促進」とあるが、山手幹線の木津方の南進の開通促進については、具体的取組をどう展開するのか？

答弁:①27年3月に土地区画整理事業の推進母体となる準備委員会が発足した。

②28年度は、準備委員会が土地区画整組組合設立に向けた移行準備や仮同意や同意率の向上に向けた準備委員会の活動支援を行う。また、国の補助期間の29年度内に土地区画整組組合の設立を目指し、南進区間の早期整備につなげたい。

## 4年目を迎える「せいか365」について

せいか365の取り組み内容は住民に理解され浸透してきたと考えている。

町内でいたるところで「歩く人」をみかける。職員の健康ウォークや同志社大学と連携した精華版歩数計アプリが実用展開し、利用者も増加している。そこで次の3点を問う。

**質問1:**町は、健康づくりを積極的に展開し、介護保険料や医療給付の伸びを緩やかにし、健康長寿のまちづくりを目指しているが、その効果について数字的にどのように分析・評価しているか？

答弁:①健康づくり運動を開始した平成25年度に対し、26年度の一人当たりの介護給付費と医療給付費は高齢化が進行している中で増えることは避けられない状況にある。(※6月比較で介護約6%、医療約1%の増加)この伸び率を緩やかにしていくことが重要であると考えている。

②健康づくり運動「せいか365」として、普及啓発、調査研究、研修、職員実践、企業・大学などとの連携など、事業展開を図っている。

住民の認知度は、当初14.1%から3年目に入り26%となり浸透してきた。

③各分野で個別計画を策定し、評価指標を定めており、長期的視点から「せいか365」の効果が確認できるものと考えている。



**質問2:**「歩く」に関して、アプリやアンケートなどでデータ収集し、検証し、データを公表して、さらなる促進につなげる必要があると考える。

本町のデータを解析した結果とその効果は？

答弁:①健康増進計画策定時の24年度のアンケートで、運動習慣があるものの割合、男性50%、女性41.5%。また日常体を動かすことを意識しているものの割合、32.6%となっている。日常生活の歩数の増加の評価項目では、現状値は把握できていない。

②本町で開発したセイカ歩数計アプリの活用推進で健康づくりにつなげていきたい。

現時点では、歩数計の記録は、個人のデータ管理にとどまっており、今後はデータ収集や分析ができる仕組みなど研究していきたい。

**質問3:**「歩く人」の歩く環境の整備について、今までの取り組み、今後の歩く環境整備をどのように考えているか？

答弁:①広報誌「華創」に歩くに関する啓発記事の連載、せいか祭り会場でウォークラリーの実施、シルバー人材センターふるさと案内人の会と共催のウォークイベントなどで歩くを促進する環境づくりに取り組んできた。

②今後については、より一層促進していく環境整備として、町内のまち歩きと健康ウォーキングを組み合わせた健康ウォーキングマップ作りに取り組んでいきたい。



●町職員の方も第1水曜日に健康ウォークされている。

その中で、歩く環境についてのチェックをして、課題を見つけ、改善を進めていただきたい。

山本せいご後援会事務所

精華町大字南稲八妻小字門口71

TEL/FAX

Eメール

ホームページ

0774-94-3301

seigo722@balloon.ne.jp

<http://www.balloon.ne.jp/seigo722/>